

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2012年5月7日）

■第3, 4刷の修正箇所

※第1刷からの修正箇所はhttp://www.yodosha.co.jp/correction/9784758109253_corrections.pdfをご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第3章					
70	下から3行目	600mg/m ² を	800mg/m ² を		12/05/07
70	下から2行目	第7日目に2時間で静注	第1日目に2時間で静注し、十分な補液を行う		12/05/07
70	下から1行目	3~4週ごとに	4週ごとに		12/05/07
第5章					
112	「処方の解説と服薬指導」の1行目	非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)が第1選択薬となるが、	関節リウマチの薬物療法は、抗炎症薬による対症療法と疾患の制御を目的とする抗リウマチ薬による根本療法の2本立てを基本とする。まず、早期例、軽症例に対して、抗炎症薬としてNSAIDsが投与されるが、		12/02/24
第8章					
148	症例14行目	Ca 8.1mg/dL	Ca 7.6mg/dL		12/02/24
154	症例1~4行目	B型肝炎ウイルスのキャリアーであり、B型肝炎ウイルスが原因で、血尿、タンパク尿が出現し、高血圧(165/92 mmHg)も認めるようになった。また、施行した血液検査・尿検査は以下であった。	ときどき健康診断でタンパク尿を指摘されることはあるが、3~4年健診を受けずにいた。今回、健康診断で血圧が165/92 mmHgで、尿検査にてタンパク尿に加えて血尿も指摘された。さらに、精査を実施したところ以下であった。		12/02/24
第11章					
234	下から1~3行目	HIV感染は(感染したリンパ球によって)cell to cell感染によって感染が成立するため、感染リンパ球を含む血液、精液、膿液、母乳などによってウイルスが伝播される[cell to cell感染は成人T細胞性白血病(ATL)等でもみられる]	HIV感染は性的接觸、母児感染、輸血、臓器移植、医療事故(針刺しなど)、麻薬の静脉注射など、血液や体液にHIVウイルス量が多い場合に感染する可能性が高く、唾液、汗、尿、涙といった分泌液にはウイルス量が少ないため、感染するとはない。また、食べ物、虫や媒介生物を介した感染の報告もない。一方、同じトロウイルス科に属するHTLV-1(human T lymphotropic virus 1: ATL(成人T細胞性白血病)の原因ウイルス)は、その感染細胞と標的細胞であるCD4細胞が直接接觸する必要があるため、cell to cell infectionとなる。		12/02/24